

チュートリアル課題 意識障害で搬送されたS君

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2012-03-15 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 東京女子医科大学 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10470/29039

2007年度

Block 3 テュートリアル課題

課題番号 3

意識障害で搬送されたS君



第三内科学 佐倉 宏

シート 1

S 君は 21 歳大学生。4 月の検診で身長 170cm、体重 91kg、朝食 2 時間後の血糖値 163mg/dL、尿糖(±)でした。精密検査を受けるように言われましたが、自覚症状が何もないため受けませんでした。

【抽出が期待される事項】

肥満

食後高血糖 ⇒ (A-1) 血糖調節機構について説明できる。

尿糖(±) ⇒ (A-2) 尿糖が出現する機序について説明できる。

シート 2

夏休みに入って暑くてのどの渇きも強かったため、毎日清涼飲料水を約 4L 飲んでいました。1 週間前から夜に何回もトイレに行くようになりました。今朝なかなか起きてこないで家人が様子を見に行ったら、揺り動かしても応答が乏しく様子がおかしいので、救急車で病院に搬送しました。

【抽出が期待される事項】

口渇、多飲、多尿、血糖 564mg/dL、HbA1c 10.3%、尿糖強陽性

⇒ (A-3) 高血糖の症状・病態について説明できる。

⇒ (B-1) 糖尿病の病態・診断・分類について述べることができる。

低血圧、頻脈、舌 乾燥 → 脱水症

意識障害

ケトン臭、尿ケトン陽性、 β -ヒドロキシ酪酸高値 → ケトーシス

代謝性アシドーシス、代償性呼吸性アルカローシス

⇒ (A-4) ケトアシドーシス昏睡の病態について説明できる。

シート 3

救急外来での検査の結果、生理食塩水およびインスリンの点滴が開始されました。翌朝には意識は正常に戻り、食事も摂れるようになりました。入院 3 日目の夕食前に冷汗、手のふるえが生じ、再び意識が低下しました。

【抽出が期待される事項】

輸液およびインスリン治療による意識・検査所見の改善

⇒ (C-1) ケトアシドーシス昏睡の治療の概要を述べることができる。

冷汗、手のふるえ、意識障害、血糖 32mg/dL

⇒ (A-5) 低血糖の症状・病態について説明できる。

シート 4

ブドウ糖の静脈注射を行ったところ、すぐに意識は回復しました。1 週間後、インスリンや飲み薬はまったく必要なくなり、退院することになりました。

担当医：「入院で血糖値はずいぶん良くなりました。でも、将来のことを考えると、生活習慣の改善と定期的な通院が必要です。」

S 君：「生活習慣の改善はどんなことをするのですか？ずっと続けなければならないのですか？自信ないなあ。」

【抽出が期待される事項】

ブドウ糖の静脈注射による意識の回復

⇒ (C-2) 低血糖の治療の概要を述べることができる。

GAD 抗体 陰性、インスリン不要 → 2 型糖尿病

⇒ (B-1) 糖尿病の病態・診断・分類について述べることができる。

腹囲が大きい、腹部 CT → 内臓脂肪型肥満

⇒ (B-2) 内臓脂肪型肥満と皮下脂肪型肥満について述べることができる。

正常高血圧、高脂血症、高インスリン血症（インスリン抵抗性）

⇒ (B-3) 動脈硬化の危険因子について述べることができる。

⇒ (B-4) メタボリックシンドロームについて述べることができる。

生活習慣の改善 → 食事・運動療法、定期通院の必要性

⇒ (C-3) 糖尿病の治療の概要を述べることができる。

⇒ (C-4) 生活習慣改善の困難さが理解できる。